

都下における乳牛の繁殖実態調査

(系 統 系 統)

秋永健雄 遠畑 亮 芝崎 章 荒岡昭司

1. 調 査 の 目 的

昭和 35 年度において 433 戸の酪農家の飼養規模、飼養牛の年令、産次産地、或は血統について調査するとともに、産次別受胎難易、分娩間隔等について報告したが、昭和 36 年度においては、1 年固における飼養規模の推移、或は飼養牛の移動等に重点をおき、その実態の把握をこころめた。

2. 調 査 方 法

(1) 調 査 略 農 家 の 選 定

35 年度調査農家 433 戸の内、区部及び調布、府中地区を除外した 404 戸について実施したが、その内訳は下記の通りである。

A 区		B 区		C 区		D 区		E 区		F 区		計
市町村名	戸数	市町村名	戸数	市町村名	戸数	市町村名	戸数	市町村名	戸数	市町村名	戸数	
青梅市	66	瑞穂町	76	秋多町	48	村山町	34	立川市	4	小平町	9	
		羽村町	27	五日市町	19	大和町	22	日野町	2	国分寺町	9	
		福生町	8	檜原町	7	砂川町	9	国立町	1	保谷町	1	
				八王子市	2			昭島市	6	久留米町	10	
				日の出村	17			町田市	2	田原町	2	
										香瀬町	5	
										東村山町	18	
											54	404

(2) 調 査 期 間 及 方 法

昭和 36, 9, 1 ~ 36, 10, 31

出張戸別聞き取り調査

(3) 調 査 項 目

飼養規模、飼養牛の実態

3. 調査成績

集計に当つては、前年度同様、A B C D E Fの各区に分けて集計した。

(1) 飼養戸数の移動表

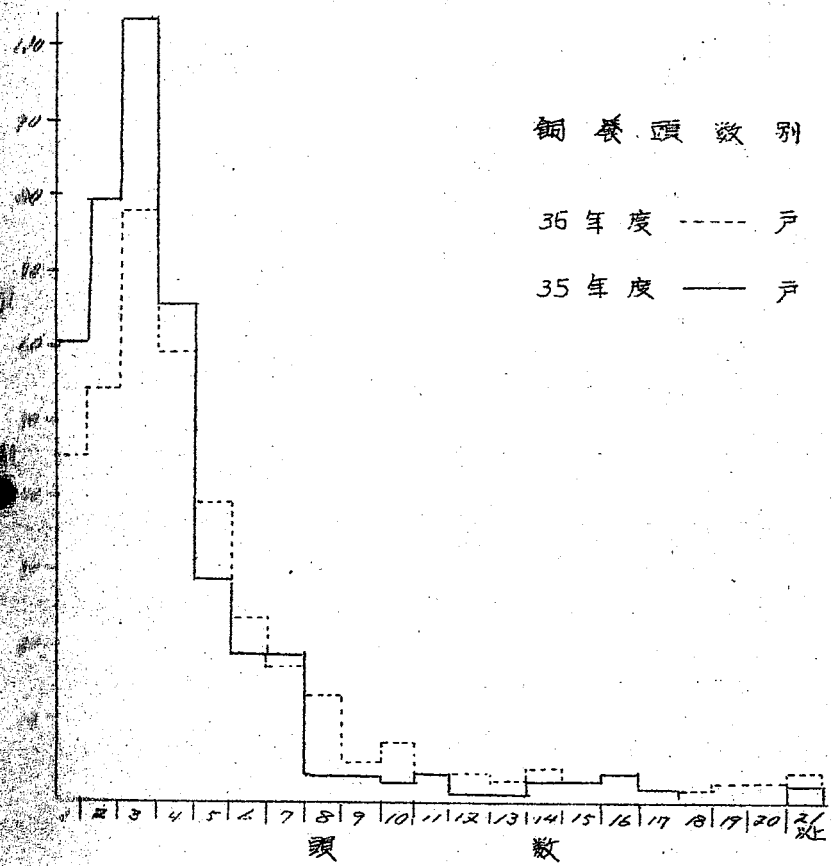
	地 域 別	遷定 戸数	飼養中止戸数		飼養開 戸数	調査 戸数
			35年度	36年度		
A	青梅市	66	2	5	0	59
B	瑞穂町, 羽村町, 稲生町	125	7	4	0	114
C	秋多町, 五日市町, 松原町, 八王子市, 日の出村	89	6	2	4	85
D	村山町, 大和町, 砂川町	55	4	2	0	49
E	立川市, 日野町, 国立町, 昭島市, 町田市	15	1	2	0	12
F	小平町, 国分寺町, 保谷町, 久留米町, 田無町, 清瀬町, 東村山町	54	2	9	0	43
	計	404	22	24	4	362

(2) 飼養頭数別戸数

飼養頭数 調査戸数	飼養頭数																										1戸平均 飼養頭数	35年調査 全左頭数		
	1頭	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	18	19	20	21	22	26									
A	59	8	14	8	10	5	5	2	3			1					1	1							1	$\frac{263}{59}$	4.45	$\frac{175}{34}$	2.73	
B	114	7	16	23	27	14	9	5	3	1	3		1	3											1	1	$\frac{535}{114}$	4.69	$\frac{447}{118}$	3.78
C	85	15	14	26	11	7	1	5	1	1	2			1				1									$\frac{311}{85}$	3.65	$\frac{264}{83}$	3.18
D	49	9	5	10	4	6	5	5	1	1			1		1											$\frac{224}{49}$	4.59	$\frac{196}{51}$	3.84	
E	12	2	1	3	2		1																		$\frac{60}{12}$	5.00	$\frac{46}{14}$	3.28		
F	43	4	4	7	5	7	3		5	2	1	1	2												1	1	$\frac{250}{43}$	5.81	$\frac{241}{52}$	4.63
計	362	45	54	77	59	39	24	17	13	5	7	3	3		2	4	2	1	2	2	1	1	1	1	$\frac{1643}{362}$	4.53	$\frac{1369}{382}$	3.58		

(3) 成牛飼養頭數別戶數

飼養戶數	飼養頭數																					1戶平均飼養頭數	35年飼養全左頭數		
	1頭	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21				
A	55	9	18	9	6	4	1	3	1	1		1	1				1					$\frac{204}{55}$	3.70	$\frac{133}{60}$	2.21
B	109	10	21	28	22	9	4	4	4	2	1		1	1			1				1	$\frac{447}{109}$	4.10	$\frac{372}{116}$	3.20
C	75	13	21	21	6	5	2	3	2		1										1	$\frac{245}{75}$	3.26	$\frac{202}{77}$	2.62
D	47	8	9	10	6	7	3	1	1	1		1			1							$\frac{177}{47}$	3.76	$\frac{168}{49}$	3.42
E	12	2	3	2	1	1		1			1	1										$\frac{57}{12}$	4.25	$\frac{38}{13}$	2.92
F	43	6	6	8	5	4	3	4	1		3	1			1	1						$\frac{208}{43}$	4.83	$\frac{208}{50}$	4.16
計	341	48	98	18	46	30	13	15	9	4	6	2	2	1	2	2	1	2	1		1	$\frac{1332}{341}$	3.90	$\frac{1121}{365}$	3.07



飼養頭數別戶數

36年度 ----- 戶 1,643 頭
 35年度 ———— 戶 1,369 頭

前三表及び図表で示す通り、全般的に急速な増加が認められ、且つ1〜3頭飼養農家が減少して、5〜10頭飼養が増加している。なお36年度に飼養を中止した農家25戸の中止時の飼養頭数は次の通りで、又つて、大部分が1〜2頭飼養農家で、育成を専門に行つてきた者、或は工場労働者への転出者である。7〜11頭の3戸の内1戸は埼玉県へ流出し飼養を継続中であり他の2戸は他事業への転換であった。

飼養頭数	1頭	2	3	4	7	10	11	計
農家戸数	9戸	7	2	3	1	1	1	24戸

(5) 飼養牛の年間移動

地域	55年度飼養頭数	生産頭数	購入頭数	売却頭数	死費用頭数	56年度飼養頭数
A	175	44	91	29	18	263
B	447	75	155	83	59	535
C	264	46	86	64	21	311
D	196	41	48	40	21	224
E	46	5	24	9	6	60
F	241	37	61	50	39	250
計	1,369	248	465	275	164	1,643

頭数

上段数字 純血
下段数字 雑種

30	31	32	33	34	35	64/8 4月	64/4 未済	計		計		
								純血	雑種	成牛	18/6/7月	6/7/未済
4	6	6	6	10	2	9	4	40	9	4	53	
13	15	24	34	42	7	25	21	53	210	164	210	
3	12	14	24	16	6	15	12	115	420	359	115	
37	40	58	72	71	6	35	27	88	15	34	127	
7	7	16	14	11	3	13	10	72	13	10	95	
15	18	25	45	29	10	23	20	173	23	20	216	
3	5	9	9	4	5	11	3	38	11	3	52	
10	18	18	37	18	5	17	17	52	172	139	172	
4	1	4	3	2		2	2	13	3	3	18	
1	1	12	8	2		2	2	18	42	38	42	
2	7	4	4	3	1	4	4	33	4	4	41	
19	30	19	29	26	2	14	20	41	209	175	209	
20	40	53	60	45	7	54	36	374	284	54	374	
98	122	156	223	195	30	116	109	1269	1048	716	1269	
118	162	209	283	240	37	170	143	374	1269	1332	1411	
718	986	1272	1722	1460	225	1034	870		8107	1034	870	
									8188	1219	591	
											100%	
											100%	

成牛及び育成牛の飼育割合は前調査時と殆ど変化がなかった。

(6) 購入牛の購入先、産次別生年別内訳

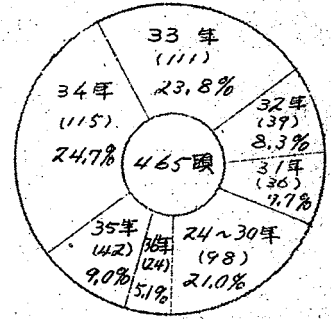
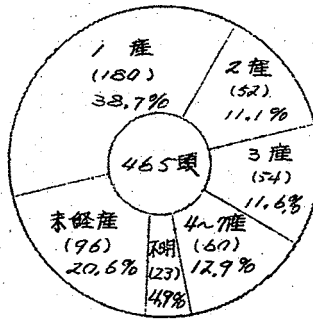
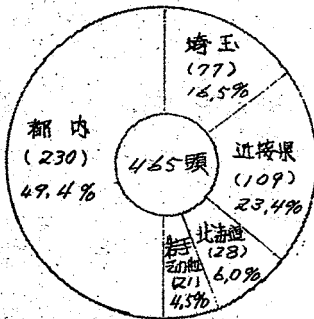
(近接県には千葉、神奈川、群馬、栃木、茨城、静岡、長野、山梨を)

産別 地域	都内	埼玉	近接県	北海道	岩手	その他	計	未經	1産	2	3	4	5	6	7
A	49	18	18	5		1	91	23	37	8	10	4	5	3	1
B	74	29	44	3	4	1	155	28	67	15	17	12	5	2	1
C	64	4	14	2	1	1	86	27	26	11	8	4	6	3	
D	18	5	13	6	6		48	8	19	8	4	1	1	3	1
E	8	3	8	1	1	3	24	5	10	2	4		2	1	
F	17	18	12	11	3		61	5	21	8	11	3	2		
計	230	77	109	28	15	6	465	96	180	52	54	24	21	12	3

購入先別内訳

産次別内訳

生年別内訳



上表の如く、購入牛の65%は都内及び埼玉県より購入され、その82%は3産迄のものであり、生年別で見ても、78%が31年度以降のものであった。

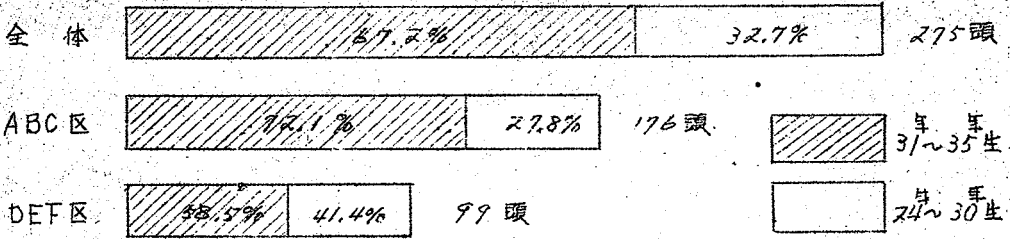
合む。)

不明	計	24年	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	計
	91			1	4	1	7	3	5	8	20	27	11	4	91
8	155	2	2	1	2	3	12	7	13	14	34	47	11	7	155
1	86	1		1	3	3	5	4	4	17	23	14	14	7	86
3	48			3	2	2	3	2	2	5	16	8	4	1	48
	24				1	3		3		2		6		3	24
11	61			1	1	3	5	4	12	3	15	10	2	2	61
23	465	3	2	7	13	15	35	23	36	39	114	112	42	24	465

(7) 売却牛の生年別内訳

生年別 地域	24年 以前	25年	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	計		
A	1				1		1	4	5	9	6	2	29		
B			3	7	4	7	8	9	8	13	10	14	83		
C		2		2	4	4	5	5	6	10	14	12	64		
D	1	2	3	3	1	2	3	5	5	3	7	5	40		
E			2		1	1		1	2			2	9		
F	4		1	3	1	6	7	5	7	5	5	6	50		
計	6	4	9	15	12	20	24	29	33	40	42	41	275		
比率	90			32.7%					185					67.2%	100%

上の表を更に A, B, C アロットワ、D, E, F アロットワに分けて比較してみると次の通りであつて、A, B, C 地区の方が若令の牛を多く売却していることを示している。

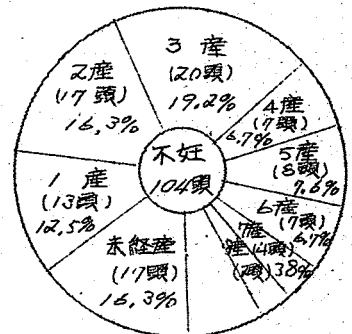


(8) 養用牛の養用原因別内訳

原因 地域	不 妊	産 后不 良	子 宮脱	習 慣性 流産	ブル セラ	泌 乳量 少	乳 房炎	低 二 等 乳	老 令	悪 へ き	心 の う ま	骨 折	か え	計
A	8	0	1			4				1	1			18
B	42	5				1	3	1	4		2	1		59
C	15						1			1	3		1	21
D	11	5			1	1	1		1				1	21
E	3						1		1			1		6
F	25	4		1			3		2		1	3		39
計	104	19	1	1	1	6	9	1	8	2	7	5	2	164
	63.4%						36.6%							

上の表で示す如く、不妊が63.4%で、圧倒的多数を占めている。

次に不妊牛を産次別に分類してみると、右表のとおりであつて、未経産牛の不妊養用が比較的高く、3産迄のものが64.3%と大半を占めている。



(9) 飼養牛の産次別内訳

地域	調査戸数	未経産	1産	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	産次不詳	計
A	59	96	61	34	33	15	15	5	4							263
B	114	129	130	95	75	43	32	13	3	5	1				9	535
C	85	97	67	55	37	22	21	6	3	2					1	311
D	49	65	58	33	25	15	6	12	1	2					7	224
E	12	15	16	12	9	2	3	2	1							60
F	43	59	50	40	47	14	16	5	2						17	240
計	362	461	382	269	226	111	93	43	14	9	1				34	1,643
比率		28.0	23.2	16.3	13.7	6.7	5.6	2.6	0.8	0.5	0.06				2.0	100.0
35年度比率		32.3	20.9	17.3	9.9	8.4	4.6	1.8	1.8	0.65	0.14	0.07			1.6	100.0

(10) 飼養牛の産地別内訳

地域	調査飼養頭数	自家生産	都内産	近接県産		岩手、北海道 及び その他県産	産地不詳	計
				埼玉県	近接県			
A	263	93	101	28	28	10	3	263
B	535	204	176	57	36	10	2	535
C	311	117	141	5	39	7	2	311
D	224	99	65	12	30	18		224
E	60	18	24	3	10	5		60
F	250	100	55	32	28	33	2	250
計	1,643	631	562	137	221	83	9	1,643
比率		38.4%	34.2	8.3	13.4	5.0	0.5	100.0
35年度比率		40.1	35.5		20.3	3.9		

(11) 飼養牛の種雄牛別内訳

種雄牛別	地域別	A	B	C	D	E	F	計	35年度比率
場種雄牛を父とする牝牛		107	191	116	66	12	31	524	32.06%
その他の種雄牛を父とする牝牛		46	85	93	55	10	44	333	20.26%
不詳の牝牛		110	259	102	103	27	195	756	47.88%
計		263	535	311	224	60	250	1,643	100%

第9, 10, 11表は、それぞれ産次、産地、種雄牛別に集計。前回調査成績と比較したものであるが、著しい変化はなかつた。

(12) 産次別受胎難易調査

$$\frac{\text{受胎易}}{\text{受胎難}} \times 100 = \text{比率} = \frac{\text{難}}{\text{易} + \text{難}} \times 100 = \%$$

産次別 年度別	初産	産1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9	9~10	10~11
36年度	$\frac{143}{43}$ 23.1%	$\frac{213}{90}$ 29.2%	$\frac{142}{64}$ 31.0%	$\frac{94}{55}$ 29.1%	$\frac{56}{37}$ 39.9%	$\frac{33}{12}$ 26.6%	$\frac{15}{7}$ 31.8%	$\frac{5}{3}$ 37.5%	$\frac{1}{1}$ 50.0%	$\frac{1}{0}$ 0%	—
35年度	$\frac{510}{113}$ 18.1%	$\frac{394}{141}$ 26.3%	$\frac{256}{94}$ 26.8%	$\frac{153}{63}$ 29.1%	$\frac{109}{29}$ 21.0%	$\frac{40}{19}$ 32.2%	$\frac{19}{4}$ 17.3%	$\frac{7}{5}$ 41.6%	$\frac{4}{2}$ 53.3%	$\frac{1}{0}$ 0%	$\frac{1}{0}$ 0%

13. 産次別分娩間隔調査

産次別 年度別	初産	産1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9	9~10
36年度	例 191 244	130 13.5	126 13.4	78 14.3	45 14.4	30 14.4	13 14.3	5 13.6		1 12.0
35年度	419 292	215 14.7	104 14.21	64 13.7	36 14.7	18 13.5	8 14.0	3 13.3	2 15.0	

4. ち す び

- (1) 前年度調査時には、1~5頭飼養農家が全体の81.4%であったが、今回は、75.6%と減っている。特に前回1頭飼養戸数が夫々、25%、22.8%と多かった青森、秋多地区は今回、夫々、13.5%、17.6%と減っている。全体としてみても、又、1戸当平均飼養頭数でも1頭近く増加している。
- (2) 調査時搾乳専業化の爲に育成を中止した産家も数戸見受けられたが、飼養牛の生年別内訳は殆ど変わらず、全般としては、なおかなり育成が行われていることを示している。
- (3) 飼養牛の年間移動状況は、多頭数化のためか、相当に購入が行われ、その大半が都内産であった。又死廃用の内、60%が多が不妊であったが、積極的な技術普及、指導が痛感される。
- (4) 飼養牛の産次、産地、種雄牛別内訳は、前回同様で着しい変化は認められない。
- (5) 受胎の難易、分娩間隔については、多少の変化は認められるが、むしろこの面は、多頭数飼育技術体系の一環として、多頭数化、企業化された経営における乳牛を対象として調査追及の上、本調査と比較し、その問題点の把握に努めるべきであると思う。